

方程式

差を求める式をつくる(補充)

▶平成20年10月31日(金)

夏は、夜。月の頃は、さらなり。闇もなほ。蛍の多く飛び違ひたる、また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも、をかし。雨など降るも、をかし。

夏は、真昼が”をかし”ければ、それは”おかし”い。

平安時代の真昼の太陽も、sun, sun とふりそそいていたであろうし…。

木陰にて午睡するも”をかし”は現代だからか？

蛍も”過ぎたるは及ばざるが如し”で、

たばになって来られると、いと”わるし”と思うのは、

主観の相違でしょうか？

そんなに来られては、**こうるさい! (*^_^*)**

”**ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行く**”のがいいなあ。

そうそう、

文章題の、”**こむずかしい**”問題をやっていたのでしたね。

ところで、この”**こ**”ってよく使いますが、どういう意味なのでしょうね。

広辞苑には、こ【小】(接頭)として9つの意味が書いてありますが、上の2つの意味は「その状態を憎む意を表す」にあたるのでしょうか。

「こぎたない」や「こうるさい」の例をあげています。

「こ」については、広辞苑では全部で52個の使い方を紹介しています。

たった1文字で52個の意味をもたせるなど、日本語は**こむずかしい!**

英語の to や in など多義語ですが、

日本語の「こ」にはかなうまい。!(^^)!

ちなみに、COBUILD では、to については、27個、in につては38個の意味をあげています。

”こむずかしい”「こ」は国語の先生にまかせておきましょう。

数学、行きます。

宿題の答です。

「たまごを1個15円で何個か仕入れました。運ばんする途中で10個はつぶれたが、残りを1個20円で売ったので、全体として700円の利益がありました。仕入れたたまごの個数を求めなさい。」

を解いたとき、

$$\begin{aligned} 5 \times (\quad - 10) &= 700 \\ &= 150 \quad \text{答} \quad 150 \text{個} \end{aligned}$$

では、なぜまちがいなのか、という問題でした。

要するに、壊れたたまごのロスを利益計算に考慮していないということです。

壊れていない卵を売った利益 - 壊れた卵の原価 = 全体の利益
とならなければならないわけで、これで計算すると

$$5 \times (\quad - 10) - 15 \times 10 = 700 \\ = 180 \quad \text{答} \quad 180 \text{個}$$

となり、正解します。

しかし、

「壊れていない卵を売った利益 - 壊れた卵の原価 = 全体の利益」
という考え方も、これはこれで中学1年生にはかなり困難なので、
やはり、利益計算は

総売価 - 総原価 = 総利益

$$\text{つまり、} 20 (\quad - 10) - 15 = 700$$

$$\text{これを解いて、} \quad = 180$$

の考え方で教えるべきであると考えます。

この種の問題は1度は扱ったことはあると思いますが、
現場の先生は、どんな生徒の反応体験をおもちでしょうか。

きょうは、宿題の検討でおしまい。

摩訶不思議な答案については、次回のお楽しみ、ということで...

楽しんじゃいけないのでしたね...(*^_^*)

きょうは、冒頭の枕草子、「夏は、夜。」を

パロディで使う場がありませんでした。

意味ないイントロというのも文全体が締まらないもので...

少しは、締めてから、終わらないと、

引用させていただいた清少納言には申し訳が立ちません...

枕草子では、

清少納言は、夏の夜について

月があってもなくてもいい、

雨が降っていてもいなくてもいいなど、

いろいろなことを言っていますが、

要するに、「夏は夜がとにかくいい！」

と言っているにすぎないのですね。

ところで、こういうフレーズって中学生の作文によくあるのです。

「...は楽しい」とか「...は悲しい」など。

こういうのを抽象的表現というのですが...

書いている人には、具体的な体験の裏付けがあるかもしれませんが、

読んでいる人には、何のことがさっぱりわかりません。

「...は楽しい」は、自分が楽しかったときの自分の具体的な行動を、
「...は悲しい」は、自分が悲しい思いをしたときにとった具体的な行動を
デフォルメして表現すること。

たとえば、

「ふと、夜空を見上げると、満天に浮かぶ星々が涙の海の中でにじんでいる。
あの星空のどこかに、いまはなき母の面影をさがしている自分にとまどいを覚え
た。その海のひとしずくを、母がちいさなスプーンで私の口に入れてくれた。
”しょっぱ〜！”、しかめづらの私の顔を見て母がほほえんでいる...。」

こういう表現の中学生の元の文は、

「母が亡くなってとても悲しかった。」

です。

読む方はいっこうに悲しくなりません。

が、前の臨場感のある文を読むと、思わずもらい泣きしてしまいます。

どうでしょう？

つまり、読者を説得する臨場感のある具体的場面を書くこと。

こうすると、作文ではいい点をもらえるのです。

清少納言は、枕草子のなかで「をかし」の感情を、じつに臨場感あふれる
豊かな情景・表現で紹介しています。

だから、中学生諸君は、作文術を学習するに際して、

「入試に合格する作文術」などという参考書を読む時間があったら、
枕草子を熟読し、熟読しましょう。

ぼろぼろになるまで繰り返し読みまくりましょう。

きょうは、国語の授業をしてしまいました。 (*^_^*)!

ジャンジャン!

しかし、数学の教材はきちんと用意しましたよ。

数専ゼミの教材は、生徒達が摩訶不思議なまちがいをする教材には、すべて補充
用問題を用意してあります。

2度と同じまちがいをしないように...

数専ゼミの教材は、「まちがいをさせない教材」なのですね...(^_^)v

◀ **【 まちがいをさせない教材 】** ▶

インターネットを使った通信教育用教材(生徒の自学自習用教材)の紹介です

方程式 16h	1 解き方の基本(その2) 差を求める式をつくる	クリック
------------	------------------------------------	------